

# 公衆衛生看護活動論 I (ライフサイクル別)

単位数 (時間数) : 1 単位 (30 時間) 必修/選択 : 選択 履修年次 : 3 年次 開講時期 : 前期

科目責任者 (職位・氏名) : 教授・鈴木るり子

科目担当者 (職位・氏名) : 講師・松岡真紀子、助教・石田知世、助教・磯島実奈  
非常勤講師・堀籠ちづ子、非常勤講師・齊藤由美子

---

対応DP : 基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢  
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号 : 84

## ■ 授業概要

各ライフステージの健康を支援する施策、地域に顕在・潜在している健康課題の特徴及び個人・家族、集団、地域における公衆衛生看護活動の展開方法を教授する。また、学校・産業保健における公衆衛生看護活動の具体的な展開方法を理解し、公衆衛生看護活動を包括的に捉える能力を養う。

## ■ 到達目標

1. ライフサイクル別の公衆衛生看護活動について説明できる。
2. ライフサイクル別の公衆衛生看護活動の展開過程について説明できる。
3. 学校の場合における公衆衛生看護活動について説明できる。
4. 学校の場合における公衆衛生看護活動の展開過程について説明できる。
5. 産業の場合における公衆衛生看護活動について説明できる。
6. 産業の場合における公衆衛生看護活動の展開過程について説明できる。

## ■ 教育内容

公衆衛生看護活動展開論

## ■ キーワード

母子 (親子) 保健、思春期保健、成人保健、高齢者保健、産業保健、学校保健

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	ガイダンス 母子（親子）保健・子育て支援 活動の根拠となる法律・制度及び基礎知識	ガイダンス 1. 母子保健の理念，歴史的変遷 2. 主な関係法規と母子（親子）保健・子育て支援に関する施策 3. 主な母子（親子）保健対策	鈴木 石田
2	母子（親子）保健①	1. 乳幼児期の成長・発達及び生活の理解 2. 乳幼児期の健康課題と保健師の支援	石田
3	母子（親子）保健②	乳幼児期における保健指導	石田
4	母子（親子）保健③	【演習】 乳幼児期における保健指導 授乳/排泄/離乳食/スキンケア/抱っこ/スキップ/事故予防など	共同
5	思春期保健	思春期の健康課題と保健師活動	松岡
6	成人保健①	1. 成人保健の動向 2. 成人期の発達課題の特徴 3. 成人保健における健康課題と保健師の支援 4. 地域のサポートシステム・社会資源	磯島
7	成人保健②	1. 特定健康診査 2. 特定保健指導 3. データヘルス 4. 重症化予防	磯島
8	高齢者保健①	1. 高齢者保健医療福祉の動向 2. 高齢者の健康課題と支援 3. 社会的孤立・孤立死の定義と現状 4. 高齢者の健康・高齢者のアセスメントツール	松岡

9	高齢者保健② 事例検討	(演習) 高齢期にある人々の看護活動 1. グループごとに事例検討 2. グループごとに事例に対する個別支援、地域全体への支援方法について検討 3. 発表により共有	共同
10	学校保健① 学校における公衆衛生看護 学校保健を支える行政体系と法体系	1. 学校保健の役割と意義 2. 学校における保健師, 養護教諭, 看護師の役割 3. 学校における看護の歴史 4. 学校における公衆衛生看護活動と倫理 5. 学校保健行政 6. 学校保健安全法 7. WHO とヘルスプロモーション・スクール	堀籠
11	学校保健② 学校における公衆衛生看護活動の展開 (学校保健における健康危機管理含)	1. 学校保健アセスメント 2. 学校保健計画と保健室運営 3. 学校保健の組織的展開 4. 学校保健における危機管理	堀籠
12	学校保健③ 学校における公衆衛生看護活動の実際	1. リスクを持つ児童生徒への支援と予防 2. 被虐待児の可能性のある児童生徒への支援と予防 3. 救急処置を必要とする児童生徒への支援	堀籠
13	産業保健① 産業保健の概要	1. 産業保健の目的と産業保健活動 2. 産業保健における保健師の役割・機能 3. 日本における産業保健の歴史 4. 産業構造の変遷 5. 産業保健の制度とシステム	齊藤
14	産業保健② 産業における公衆衛生看護活動の展開	産業保健における健康課題への対策と支援の実際①	齊藤

15	産業保健③ 産業における公衆衛生看護活動の展開	産業保健における健康課題への対策と支援の実際②	齊藤
----	----------------------------	-------------------------	----

## ■ 履修条件

ヘルスプロモーション論、公衆衛生学の単位を取得していること。

## ■ 成績評価方法

期末試験 80%、演習 20%

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・希望者に対して、試験のフィードバックを行う。希望者は、事前にアポイントを取ったうえで、科目責任者の研究室を訪ねること。

## ■ 教科書

- ・中谷芳美他編（2024）『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』医学書院
- ・井伊久美子他編（2024）『新版 保健師業務要覧 第4版 2024年版』日本看護協会出版会
- ・勝又浜子他編（2024）『「看護法令要覧 令和6年版」』日本看護協会出版会

## ■ 参考書・参考資料等

- ・岡本玲子他編（2022）『公衆衛生看護学テキスト 第3巻 公衆衛生看護活動論Ⅰ 第2版』医歯薬出版株式会社
- ・荒木田美香子（2024）『公衆衛生看護学テキスト 第4巻 公衆衛生看護活動Ⅱ 2024年版 学校保健・産業保健』医歯薬出版株式会社
- ・中村裕美子他編（2023）『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』医学書院
- ・藤内修二他編（2021）『標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論 第5版』医学書院
- ・村嶋幸代他編（2022）『保健学講座第3巻 公衆衛生看護活動展開論』メヂカルフレンド社
- ・衛藤隆他編（2022）『学校保健マニュアル改訂10版』南山堂
- ・医療情報科学研究所編（2024）『公衆衛生がみえる 2024-2025』MEDIC MEDIA
- ・土肥誠太郎他編（2019）『職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営第1版』MEDIC MEDIA
- ・厚生労働統計協会編（2023）『国民衛生の動向 2023/2024』厚生労働統計協会

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・事前学修：シラバス該当箇所のテキスト及び参考資料を読了しておくこと。
  - ・事後学修：配布資料を確認し、理解に努めること。
- 事前・事後学修は、計90分程度行うこと。

## ■ 担当教員からのメッセージ

事前学習・復習をして講義を受けること。

## ■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 12、rsuzuki★iwate-uhms.ac.jp、授業日 17:00 まで  
(※メールの際は★を@にしてください)

## ■ 担当教員の実務経験の有無

有

## ■ 担当教員の職務経験

保健師・研究職

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

## ■ 実務経験を活かした教育内容

公衆衛生看護活動を基に、新たな公衆衛生看護活動について論述したいと考えている。講義時間内にディスカッションの時間を設けるので、積極的な参加を望む。